

2021年度決算発表後テレフォンカンファレンス(2022年5月12日) 質疑応答

(回答者:三井住友トラスト・ホールディングス 執行役兼執行役員 山城 正也)

Q.1	22年度の株式等関係損益について。政策保有株式の売却益がベア投信の実現損失で打ち消され、結果として株式等関係損益がゼロになる予想だが、ネット株式等関係損益がプラスになるのはいつからか。考え方を教えて欲しい。
A.1	ベア投信の評価損について21年度に相当実現させ、期間損益に与えるリスクは小さくすることができた。株価水準が低下しているので、可能性は低くなっているが、株価水準がまた上昇した場合に期間損益に影響を与えうる銘柄は若干残っている。それらについて、22年度に評価損を実現させる方向。政策保有株式の売却見込みも積みあがっているので、その売却益を使う。22年度でほぼリスクは解消できると考えている。一方で、22年度は株式関係損益をゼロとしても中期経営計画最終年度の目標としていた1,900億円を達成できるようになってきたと理解してもらいたい。

Q.2	22年度予想の建付けについて。株式等関係損益以外にも、実質業務純益、与信費用等もかなり保守的に見える。21年度と同様に、期中で業績予想の上方修正、あるいは結果的に上振れでの着地を期待していても良いか。また、上振れが発生した場合は、従来方針に沿って株主還元へ反映されると考えて良いか。
A.2	22年度予想は、21年度の市況押上げ要因剥落に加え、足元の不透明な状況も織り込んでいる。不透明性が払しょくされてくれば、業績にプラスになることも考えられる。21年度の円安による業績への影響は60億円だが、3月末からさらに円安も進んでいる。その潜在的なプラス影響は十分に織り込まれていない。また、不動産仲介案件も材料が着実に積み上がっている。そういったプラスの要素を踏まえ、しっかり実績が上がってくれば、それを踏まえた業績予想の見直しも検討する。

Q.3	22年2月24日に自己株式300億円の取得枠設定の発表をしているが、取得実績は未だゼロである。自己株式が取得できない理由を教えて欲しい。また、取得期間が8月31日までとなっているが、それまでに300億円の取得はできると考えてよいか。
A.3	具体的な理由を伝えられないが、テクニカルな要因である。伝えられることとして、足元のロシア・ウクライナ情勢といった環境変化によるものではない。また、当該テクニカルな要因は、恐らくだが、皆さまのサプライズになるようなことではないものと考えている。事態が解消すれば、速やかに取得を進めていきたい。

Q.4	8月31日までに自己株式の取得が終わらなかった場合、期間延長も考えるのか。
A.4	資本政策に関することなのでこの場で明言はできないが、自己株式取得を実施する趣旨は、資本の状況を鑑みて資本効率の向上を図ることである。3月末のCET1比率を見ても、資本の活用ステージに入ったという状況は変わらない。 取得できなかった場合は、そういった趣旨や状況踏まえて判断し、ご案内したい。

(次頁に続く)

Q.5	資料P21に掲載のある特定引当金について。対象範囲、金額を見直しているが、従来と比べて対象範囲は広がったのか、限定されたのか。
A.5	特例引当金は、特定の業種を定め、そのリスク要因を踏まえたうえで、内部格付の遷移など一定のシミュレーションを実施し、見積もっているもの。シナリオを置いたフォワードルッキングな引当てであることは変更していない。当初計上した際は、コロナ要因だったが、現在の環境変化に合わせて対象範囲を変更している。リスクへの備えはしっかりと出来ている。

Q.6	与信費用について。今後、再度、大口先のリスクが仮に出てきたとしても、22年度予想与信費用200億円と特例引当金210億円の合計410億円の備えによって、十分に対応出来るという理解でよいか。
A.6	そのご理解の通り。巡航速度での与信費用発生水準である年間200億円の2倍の構えであり、不透明な環境なので今後の状況次第ではあるが、現時点では十分対応可能とみている。

将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当該情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料に掲載されている情報は情報提供を目的とするものであり、有価証券の勧誘を目的とするものではありません。